

北河内歴史の散歩道

② 住道・平野屋新田会所跡

大阪・奈良を 結ぶ古堤街道

前回のゴール地点である大谷神社から、さらに西へ足を延ばして住道駅まで、約1時間の散歩コースをご案内したい。

須波麻神社と中垣内庚申塔を経て古堤街道に沿って歩く。この辺りの地域には、明治になるまで大阪・奈良間を結ぶ鉄道がなかった。両都市を行き来するには生駒山地を超える街道がいくつかあって、そのひとつが古堤街道である。住道本通商店街の東端あたり、河内街道と交差する地点に「古堤街道」の道標がひっそりと立っている。かつての名残を示すものはこれだけで、しかも周囲にある建物の陰に隠れて見つけづらくなっている。

古堤街道を西へ向かって歩くと、坐摩神社がある。住宅地の囲まれた小さな神社のため見つけづらく、紙の地図で探そうとしたら迷ってしまうかもしれない。地図アプリのナビ



古堤街道の道標

ゲーションが便利だ。同じ名前の神社が大阪にもあるが、後述する平野屋新田会所の設置に伴って勧請されたものだ。ところで「坐摩」の文字は「ざま」と読みたくなるが、正しくは「いかすり」と読む。もっとも大阪では「ざま」と読まれることも珍しくないそうで、地元では「ざまさん」とも呼ばれるという。

大阪の坐摩神社のサイトには、御神徳として「住居守護」「旅行安全」「安産守護」とある。「坐摩」の語源については、土地または居住地を守る意味の「居所知」が転じたといわれているが、諸説あって定まっていな。

歴史遺産として 整備される

平野屋新田会所跡

坐摩神社から歩いて5分ほど。これまた住宅地の中に忽然と現れる、金網に囲まれたL字型の空き地がある。平成20年までは江戸時代の建物が残されていたという「平野屋新田会所跡」だ。

1704年に大和川の付け替えが行われた結果、現在の東大阪市は全域ではほぼ陸地になった。旧川筋は新たな土地となり、豪商や寺院が中心になって新田開発が行われた。

平野屋新田会所は、新田の所有者が管理のため出先機関として設置し



平野屋新田会所跡(米蔵の基礎部分?)

たもの。主屋・土蔵・米蔵屋敷蔵、道具蔵、船着き場などを備え、広い敷地の一角に坐摩神社があった。当時の規模は、南北約60m、東西約120m、面積約7200平方メートルで、周囲は環濠に囲まれていた。

跡地として保存されているのは米蔵と道具蔵の基礎部分、船着き場の石段跡を含む約476平方メートルのエリアのみ敷地のほとんどは、周辺にある住宅の下に埋もれている。

残っていた建物は宅地開発のため取り壊されたが、この地を歴史遺産として残すべく、整備する計画があるという。

そこからもう少し西へ移動すると、平野屋新田会所跡の環濠の一部をなす銭屋川の水路に「さんだんもん樋」と呼ばれる樋門がある。新田に設けられた水路には、水量を調整するためにこのような樋門がつくられた。

さらに進んで恩智川を渡ると、間もなく住道本通商店街へ入るが冒頭で紹介した「古堤街道」道標が、この近辺に立っている。商店街を抜けたらJR住道駅があり、このコースのゴールとなる。